

平成 17 年 度

I 国 語

(9 時 00 分 ~ 9 時 50 分)

注 意

- 問題用紙は 3 枚 (3 ページ) あります。
- 解答用紙はこの用紙の裏面です。
- 答えはすべて、解答用紙の所定の欄に、文、文字などで答えるもののほかは、ア、イ、……などの符号で記入しなさい。
- 解答用紙の※印の欄には記入してはいけません。

5 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

何か驚いて、それまで当然だと思っていたことに、少し違っただ角度から「差し」を打つてみる。それだけでなく、違っただ角度から見えてきたことを首尾一貫させ、確かなものにする。求めても無駄な望みだと決めた。ついでに「あつさり」と表現できることに気づく。新鮮な驚き、ささいな思いつき、そしてちよこエとして「理解の修正をきつかけ」た。常識とは少し違っただ「もの見方」をしたとき、どこか一面化したいた常識そのものがより豊かなものにならないか考えてみる。これが科学を本場に発展させた人々に共通した姿勢である。

（第三段落）
しかも、本格派の科学者は、きつかけとなつた新鮮な「もの見方」を開発して、誰にでも共有できる形にまでその見方を仕上げている。そのようにして仕上げられたものが「理論」とか「科学的知識」と呼ばれている。有数の科学者がつくるものとは、まさにこの意味での理論であり、科学的知識にはかならない。

たしかに、現在では「ものづくり」というと、需要が期待できる新製品を大量生産することを即座にイメージししかつてある。しかし、工業製品の場面も、需要を呼び起こすのは、やはり製品にまで具体化された新機能そのものというより、それがたまたま画期的な利便性、新しいライフ・スタイル、あるいは懸望の世界にほかならない。ものづくりの神髄はクリエイティブな見方であり、それが可能性を具現する技であり、音楽、文学、映画、その他の作品も、この点ではやはり「ものづくり」の成果である。音楽家や文学の作家は、工業製品のようなモノはつくっていないが、作品というものを丹念につくり上げ、世に送り出しているのである。

（第二段落）
科学者がつくるもの、すなわち理論は、職人や芸術家がつくる作品に相当する。本格派の科学者に共通するのは、ものこのクリエイティブな見方と、それを利用可能な理論にまで仕上げる入念な技にはかならない。ものづくりの視点から科学的な思考を話題にするのは、こうした理由からである。今までとは少し違っただ「もの見方」から、従来の常識をより豊かにする方向へ、つまり従来の常識をつがえて終わるのではなく、広い意味で新しい「ものをつくる」方向へと打かつた人々の歩みこそが、科学の歴史にはかならない。しかも、そのきつかけになる驚きや理解の修正は昔も今も難しい事物のなかにではなく、誰もが普段から経験していることの中に満ちあふれている。より正確に言うと、それらは人と人との交流のなかに満ちあふれていることが分かる。

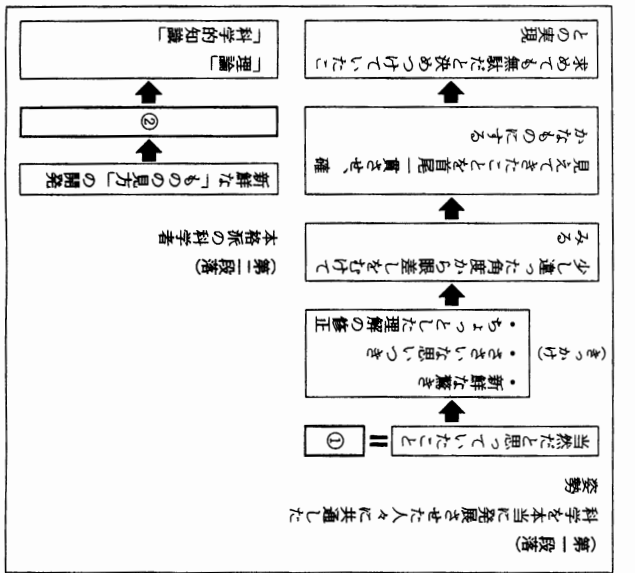
（第四段落）
しかし、一面化した常識と少し違っただ「もの見方」は、たとえどのような交流のなかで得られるのだろうか。山登りのエキスポジションは、普通の人が簡単に見過ごしてしまう微妙な空の変化や雲の動き、気温の低下なから、すかさず天候の急変を察知する。また、山道をおろす雑草の乱れや、樹木の表皮に残された独特の傷跡などを見逃さず、周辺に危険な動物がいることを説明できるという。そして、かれの察知したことや説明したことが実際的に中しととき、わたしたちは驚きとともにその説明を理解し、それを納得する。しかし、この種のことは、山登りにまつわる話だけではなない。腕のいい大工職人は、手にした木材に数年後どの程度のそりがくるかを、そのつどの確に感じ取りながら適切な削り方、組み方をしている。深い人間観察をする人は、表情の変化や微妙な振る舞いのうち、他人の心情をまさきと見ていらしている。

（第五段落）
わたしたちが身につけている常識は、しばしば以上のような深い見識や知恵、あるいは匠の技に圧倒される。しかも、常識の揺らぎは、目頃からよく経験しているものである。わたしたちは日々の生活を送るなかで、さまざまな事柄を前もって察知する。そして、ときには自分なりの理解を誰かに説明し、他の人からの説明に納得しながら、必要に応じて自分の理解を修正している。常識というものは、日常生活のなかでも絶えず問う揺らぎ、そのつど修正されながら、絶妙のバランスで成り立っている。そして、エキスポジションの技術説明は、概して大きな驚きとともに、そうして、ランスの大幅な修正を削し、常識そのものをより豊かにするのである。

（第六段落）
瀬戸一夫「科学的思考とは何だろうか」のつくりの視点からより）
注1 始めから終りまで書き通すこと。
注2 最も大切なこと。
注3 創意的な。
注4 専門家。

1 「需要」促しの漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

2 第三段落の「丹念」は形容動詞の連用形である。一線をつけた形容詞が連用形であるものをおのづから二つ選びなさい。
ア 断明が確かなら、頼みますよ。
イ 性格がとておだやかである。
ウ エグくにかすかな光が見える。
オ 私が選ばれて、非常に光栄だ。
3 次の図は、第一・第二段落の内容をまとめたものである。①は二字、②は十四字でそのまま書き抜きなさい。



4 「ものづくりの視点」とあるが、「ものづくり」にとって重要なことは何か。第三段落から三十文字以内でそのまま書き抜きなさい。

5 「わたしたちが身につけている常識は、しばしば以上のような深い見識や知恵、あるいは匠の技に圧倒される」とあるが、第五段落の山登りのエキスポジションの場合では、どのようなことに圧倒されるのか。五十文字以内で書きなさい。

6 筆者は、この文章の中で科学者をどのようにとらえているか。「もの見方」「常識」の二語を用いて、六十文字以内で書きなさい。

あなたは、中学校を卒業するにあたって、以前にお世話になった方（例 体験学習や修学旅行など校外でお世話になった方）に手紙を書くことになりました。

あとの条件にしたがって、次の部分に主文（本文）を書き、手紙を完成させなさい。

掛啓
春の訪れを感じる今日このころですが、いかがお過ごしでしょうか。

（この部分のみを解答用紙に書くこと）

敬具
三月八日
□□□□様
□□□□様

条件
1 主文を二段落構成とすること。
2 前段では、お世話になったことや字んたことについて具体的に書き、後段では、それらをお世話になったことについて具体的に書くこと。
3 主文を百五十文字以上二百文字以内でまとめること。
4 原稿用紙の使い方にしたがって、文字や仮名遣いなどを正しく書き、漢字を適切に使うこと。
5 氏名は書かないで、主文から書き始めること。